

横浜横須賀道路 逗子 IC 災害復旧に関する検討委員会

第 1 回 検討委員会 開催結果概要

1. 被災状況

- 7月3日（土）の大雨による逗子 IC のり面崩落について、地形判読、既往資料調査、現地状況調査などから以下のことを確認した。
- ・5段切土（1：1. 2）頂点を起点としたのり面崩落により全ランプに崩落土砂が堆積
 - ・今回観測された連続雨量（1日積算雨量）は198.5mmと過去10年間で最も多く、特に数日間の累計雨量を見ると著しく多かった（3日間降水量が既往の最大値に対し1.4倍）
 - ・当該地は、泥岩砂岩互層が分布しており、切土面に対して流れ盤となる地質構造をしている。この流れ盤に沿ってすべり面と思われる平滑面が確認された
 - ・今回の土砂崩落は、豪雨により流れ盤上の地下水位が上昇し、のり面が不安定になって発生したものと推察

2. 調査・動態観測計画

- 地盤状態の把握のためボーリング調査を実施することを確認した。
- ・ボーリング調査：6箇所
- 住宅地および作業時の安全確認のため、変状箇所の変位・地下水位を観測し、観測値に対して閾値を定め管理を行うことを確認した。
- ・伸縮計：住宅地側3箇所
 - ・地盤傾斜計：のり面3箇所、住宅地側6箇所
 - ・変位計測計：のり面3箇所、住宅地側3箇所
 - ・水位計：2箇所

3. 今後の復旧作業について

本復旧対策は、崩落土砂を撤去したのち崩落部の測量、土質調査を行った上で、設計・工事を実施する必要があり、また、周辺地域への影響を最小限に、慎重に施工を行う必要があるため、相当な時間を要する見込みである。このため、暫定的な運用により早期に逗子 IC 利用を再開する応急復旧対策を先行して委員会に検討・助言を求めた。

○応急復旧対策の施工上の留意点について以下のとおり確認した。

- ・住宅地及び作業時の安全確保を最優先に、住宅地側に抑止工を行った上で不安定と思われる土塊を除去し、下部の崩落土の除去を行うこと
- ・応急復旧対策を行い、暫定的な運用により利用再開を行うにあたり、土留め壁等による防護工により一般車の安全を確保すること

以上

【参考】検討委員会開催状況

